

2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年11月9日

上場取引所 東 名

上場会社名 株式会社 サンゲツ

コード番号 8130 URL <https://www.sangetsu.co.jp/>

代表者 （役職名） 代表取締役 社長執行役員 （氏名） 安田 正介

問合せ先責任者 （役職名） 取締役 執行役員 財務経理部長 （氏名） 助川 達夫

TEL 052-564-3333

四半期報告書提出予定日 2022年11月14日

配当支払開始予定日 2022年12月1日

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：有（アナリスト・機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2023年3月期第2四半期	81,726	16.8	8,998	232.6	9,267	231.4	6,238	287.2
2022年3月期第2四半期	69,955	—	2,705	6.4	2,796	0.3	1,611	△18.4

（注）包括利益 2023年3月期第2四半期 6,652百万円（134.8％） 2022年3月期第2四半期 2,833百万円（23.8％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	106.34	106.27
2022年3月期第2四半期	26.87	26.85

（注1）「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を2022年3月期の期首から適用しており、2022年3月期第2四半期の売上高については、当該会計基準等を適用した影響が大きいため、対前年同四半期増減率を記載しておりません。

（注2）2022年3月期末において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2022年3月期第2四半期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2023年3月期第2四半期	153,401	89,921	58.6
2022年3月期	147,943	88,326	59.4

（参考）自己資本 2023年3月期第2四半期 89,838百万円 2022年3月期 87,808百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	35.00	—	35.00	70.00
2023年3月期	—	40.00			
2023年3月期（予想）			—	40.00	80.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	170,000	13.7	17,500	119.9	18,000	119.4	12,000	4,239.0	204.56

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有

② ①以外の会計方針の変更：無

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料P.9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期2Q	59,200,000株	2022年3月期	59,200,000株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	517,602株	2022年3月期	552,040株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期2Q	58,662,559株	2022年3月期2Q	59,971,988株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(四半期決算説明会内容の入手方法)

当社は、2022年11月15日(火)にアナリスト・機関投資家向け説明会をオンラインにて開催する予定です。この説明会の資料については、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報)	10
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（2022年4月1日～2022年9月30日）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症対策の規制緩和により社会経済活動の正常化が進み、緩やかな持ち直しの動きが見られました。しかしながら、ウクライナ情勢をはじめとした地政学的リスクの高まりによるサプライチェーンの混乱や急激な円安の進行等により、景気の先行きは不透明な状況が続いています。

当社事業に関連の深い国内建設市場におきましては、新設住宅着工戸数は全体的に弱含みで推移したほか、原材料価格の高騰やエネルギーコストの上昇が顕在化するなど、経営環境は予断を許さない状況となりました。

このような状況下で、当社グループは、中期経営計画に基づく施策を着実に進め、国内におけるバリューチェーン上のポジション強化として、9月には九州エリアの有力配送企業である有限会社クロス企画をグループ会社化し、地域に根差した配送機能を拡充したほか、壁紙製造メーカーのクレアネイト株式会社の新工場建設に向けた準備を進めました。一方、原材料価格の高騰や物流コストの上昇等を背景に、2021年9月、2022年4月に実施した商品取引価格の改定に続き、2022年10月1日受注分より第三次取引価格改定を行い、インテリア事業における収益性の改善を進めました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高81,726百万円（前年同期比16.8%増）、営業利益8,998百万円（同232.6%増）、経常利益9,267百万円（同231.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は6,238百万円（同287.2%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

(インテリアセグメント)

壁装事業では、住宅市場において量産壁紙見本帳「SP」の売上が堅調に推移したほか、非住宅リニューアル市場の回復傾向に伴い、粘着剤付化粧フィルム「リアテック」が好調に推移しました。また、6月に発刊したガラスフィルム見本帳「クレアス」では、商品開発部門と営業部門との連携した販促活動強化により、脱炭素社会の実現に向けた低環境負荷商品「クリエシヤ90」や、高いデザイン性を持つ「Fog（フォグ）」シリーズが市場に浸透したことで、売上が伸長しました。これらの結果、壁装材の売上高は34,820百万円（前年同期比17.0%増）となりました。

床材事業では、住宅・非住宅で幅広く使用できるビニル床タイル見本帳「フロアタイル」の売上が引き続き堅調に推移しました。非住宅リニューアル市場においては、オフィス市場を中心にカーペットタイル「NT700」が好調に推移したほか、置敷き帯電防止ビニル床タイル「OT」も、ラインアップの拡充により市場から高い評価を受けました。また、医療・福祉施設分野の回復により、各種施設向けフロア見本帳「Sフロア」の売上が拡大しました。これらの結果、床材の売上高は23,991百万円（同12.0%増）となりました。

ファブリック事業では、新設住宅着工戸数における持家の減少の影響もあり、オーダーカーテン市場全体に縮小傾向が見られた中でも、カーテン見本帳「ストリングス」は好調に推移しました。また、ワンプライスによる選びやすさを追求したカーテン見本帳「シンプルオーダー」では、商品ラインアップの拡充と新たに掲載したロールスクリーンが市場から高い評価を受け、売上が伸長しました。株式会社サンゲツヴォーヌでは、B to C事業の強化策として、EC事業におけるWEBサイト専用のオリジナル商品の拡大や、ユーザビリティの向上を図りました。カーテン販売を中心としたビルダーサービスを行うJoyplus事業においては、広島・九州で事業を開始するなど、営業拠点の拡大を進めました。これらの結果、カーテンと椅子生地を合わせたファブリックの売上高は4,547百万円（同18.8%増）となりました。

インテリアセグメントにおいては、壁装事業、床材事業、ファブリック事業、各事業において

4月1日受注分より実施した取引価格改定の浸透により、売上高・営業利益共に伸長しました。施工費や接着剤等を含むその他の売上3,211百万円（同13.3%増）を加え、インテリアセグメントにおける売上高は66,571百万円（同15.1%増）、営業利益は9,326百万円（同199.1%増）となりました。

（エクステリアセグメント）

エクステリアセグメントを担う株式会社サングリーンにおいては、住宅市場では新設住宅着工戸数における持家の減少や、前期末における価格改定後の反動減により、全体的に停滞する動きが見られました。一方、物置やガレージにおいては、8月の価格改定を前にした需要増加の影響もあり堅調に推移しました。また、非住宅市場では、同社のスペースクリエーション事業本部によるエクステリアの空間提案活動が奏功し、医療施設やオフィスなどの物件を獲得しました。さらに、同社ではスペースクリエーション事業の拡大に向けて、専門人材の拡充や事業体制の整備等の施策を実行しております。

これらの結果、エクステリアセグメントの売上高は2,895百万円（前年同期比2.6%増）となりましたが、人材拡充施策等による販売費及び一般管理費が増加したことにより、営業利益は169百万円（同33.1%減）となりました。

（海外セグメント）

海外セグメントでは、海外関係会社の2022年1月から6月までの実績を、第2四半期連結累計期間の業績に算入しております。

北米市場では、経済全体の回復傾向の中で、事業と関わりの深い非住宅建設市場にも復調が見られ、主要マーケットであるホテル市場をはじめ、オフィス・医療分野での売上が伸長しました。また、原材料価格等のコスト上昇に対する販売価格転嫁の浸透、自社製造壁紙における継続的な新商品の発売による売上拡大、不採算事業の撤退により、収益性が改善しました。

東南アジア市場では、一部で人の移動や観光業の回復に課題は残るものの、全体としては経済活動の再開が見られました。こうした状況下で、主力のホテル市場をはじめ、以前より開拓市場として注力していた住宅市場や医療・福祉市場での売上が伸長しました。

中国・香港市場では、新型コロナウイルス感染症の再拡大により観光客の制限及び各地での厳格なロックダウンが実施されるなど、依然として厳しい状況が継続しました。このような状況下で、新規顧客の獲得に向けた営業活動や、人材体制の整備を行い、事業基盤の強化に努めました。

これらの結果に加え、北米市場で一部商品の撤退による在庫の評価損を計上したことにより、海外セグメントにおける売上高は9,422百万円（前年同期比27.5%増）、営業損失は600百万円（前年同期は営業損失624百万円）となりました。

（スペースクリエーションセグメント）

スペースクリエーションセグメントのうち、主に施工部門を担うフェアートン株式会社においては、非住宅市場におけるオフィスリニューアルの需要拡大を背景に大型案件を獲得し、売上が伸長したほか、当社と連携した営業活動により、ホテル市場においても売上が拡大しました。また、成長戦略の一環として、9月にフェアートン株式会社のグループ会社である株式会社壁装が新たに東京支店を開設するなど、施工力の地理的拡大に努めました。

主にデザイン部門を担う当社のスペースクリエーション事業部においては、幅広い分野への営業活動が奏功し、主軸であるオフィスをはじめ、レジデンシャル物件など多様な物件の改修工事の増加が売上に貢献しました。また、専門人材の獲得など事業領域の拡大を目指した施策を実行したほか、グループの総合力でスペースクリエーション企業を具現化した新オフィス「関西支社センター

オフィス」が、第35回日経ニューオフィス賞「近畿ニューオフィス 奨励賞」と2022年照明施設賞「関西支部照明施設奨励賞」を受賞しました。

これらの結果、スペースクリエーションセグメントの売上高は3,580百万円（前年同期比32.5%増）、営業利益は127百万円（前年同期は営業損失34百万円）となりました。

（サステナビリティの取り組み）

当社グループは、サステナビリティを事業と一体として考え、事業活動を通じて持続可能な社会を実現するため、長期ビジョン〔DESIGN 2030〕において「みんなで（Inclusive）いつまでも（Sustainable）楽しさあふれる（Enjoyable）社会の実現」を掲げ、注力しています。8月には、この長期ビジョンの実現に向けた財務・非財務情報を集約し、価値創造ストーリーを軸に分かりやすくまとめた統合報告書「SANGETSU REPORT 2022」を発行しました。

また、SDGsの推進に関する取り組みとして、8月には株式会社サンゲツ沖縄が、地域に根差したさまざまな活動を評価され、「おきなわSDGsパートナー」に認定されました。

環境に関する取り組みでは、持続可能な社会の実現に向けた商品開発を進め、10月には100%リサイクル糸を使用した低環境負荷カーペットタイル「NT700 Fiber Eco」を発売しました。さらに、10月に地球環境や生活環境の向上につながる商品として、カーペットタイル「NT double eco」、壁紙「MEGURuWALL（メグリウォール）」、ガラスフィルム「クリエイシア90」、ロールスクリーン「CS（シーエス）ロールスクリーン」の4商品が「2022年度グッドデザイン賞」を受賞しました。また、現在計画中のクレアネイト株式会社の新工場においては、GHG排出量の削減を目指し、メイン燃料を従来の重油から液化天然ガス（LNG）に変更するほか、太陽光パネルの設置を行うなど、環境にも配慮した新工場建設を予定しています。

社会参画活動では、各地で継続的に実施している児童養護施設への内装改装支援に加え、新たに「こども食堂」での新築内装施工支援を行うなど、活動の幅を拡大しました。なお、当活動では当社だけではなくグループ会社である株式会社サンゲツヴォーヌの社員も参加し、グループ全体での取り組みを進めました。また、社員による海岸清掃活動を各地で実施するなど、漁網などをリサイクルしたカーペットタイル「NT double eco」との連動企画に取り組みました。

当社グループはこれからも、サステナブルな社会の実現に向けた取り組みを強化し、全てのステークホルダーとともに、新しい価値創造のよろこびを分かち合える企業になることを目指してまいります。

（2）財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前期末に比べて5,458百万円増加し、153,401百万円となりました。また純資産は、前期末に比べて1,595百万円増加して89,921百万円となり、自己資本比率は58.6%となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2022年11月2日発表のとおりで変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,347	20,614
受取手形、売掛金及び契約資産	34,148	32,704
電子記録債権	16,028	17,448
有価証券	300	300
商品及び製品	14,700	17,942
仕掛品	179	331
原材料及び貯蔵品	2,843	3,089
その他	1,448	1,212
貸倒引当金	△471	△482
流動資産合計	87,525	93,161
固定資産		
有形固定資産		
土地	16,435	16,435
その他（純額）	18,849	18,615
有形固定資産合計	35,285	35,051
無形固定資産		
ソフトウェア	1,794	1,496
のれん	1,474	1,424
その他	789	887
無形固定資産合計	4,058	3,809
投資その他の資産		
投資有価証券	8,656	8,491
投資不動産	5,421	5,466
差入保証金	1,504	1,516
繰延税金資産	4,425	4,823
その他	1,171	1,192
貸倒引当金	△106	△111
投資その他の資産合計	21,073	21,379
固定資産合計	60,417	60,240
資産合計	147,943	153,401

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	13,810	15,019
契約負債	1,240	1,194
電子記録債務	12,741	12,737
短期借入金	862	2,235
1年内返済予定の長期借入金	1,101	7,438
リース債務	114	140
未払法人税等	2,777	3,584
賞与引当金	1,983	2,537
役員賞与引当金	—	122
製品保証引当金	460	474
その他	5,666	5,700
流動負債合計	40,758	51,183
固定負債		
長期借入金	7,734	895
リース債務	284	336
繰延税金負債	395	423
役員退職慰労引当金	20	23
退職給付に係る負債	8,671	8,839
資産除去債務	1,144	1,148
その他	605	629
固定負債合計	18,857	12,296
負債合計	59,616	63,480
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,616	13,616
資本剰余金	19,773	17,150
利益剰余金	54,537	58,718
自己株式	△907	△850
株主資本合計	87,019	88,634
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,258	1,167
繰延ヘッジ損益	6	11
為替換算調整勘定	567	1,019
退職給付に係る調整累計額	△1,043	△993
その他の包括利益累計額合計	788	1,203
新株予約権	71	69
非支配株主持分	446	13
純資産合計	88,326	89,921
負債純資産合計	147,943	153,401

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	69,955	81,726
売上原価	51,541	55,557
売上総利益	18,413	26,168
販売費及び一般管理費	15,707	17,169
営業利益	2,705	8,998
営業外収益		
受取利息	3	3
受取配当金	99	90
不動産賃貸料	19	232
その他	106	144
営業外収益合計	230	470
営業外費用		
支払利息	41	69
不動産賃貸費用	48	79
自己株式取得費用	2	—
為替差損	0	45
持分法による投資損失	12	0
その他	32	7
営業外費用合計	139	202
経常利益	2,796	9,267
特別利益		
固定資産売却益	11	1
投資有価証券売却益	—	21
新株予約権戻入益	—	1
助成金収入	65	6
リース解約益	—	16
段階取得に係る差益	11	—
その他	2	—
特別利益合計	90	47
特別損失		
固定資産売却損	4	—
固定資産除却損	34	4
投資有価証券売却損	—	13
特別損失合計	39	18
税金等調整前四半期純利益	2,848	9,297
法人税、住民税及び事業税	1,228	3,425
法人税等調整額	△43	△366
法人税等合計	1,185	3,059
四半期純利益	1,663	6,238
非支配株主に帰属する四半期純利益	51	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,611	6,238

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	1,663	6,238
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	326	△91
繰延ヘッジ損益	0	5
為替換算調整勘定	716	451
退職給付に係る調整額	126	49
その他の包括利益合計	1,170	414
四半期包括利益	2,833	6,652
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,781	6,652
非支配株主に係る四半期包括利益	51	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であるクレアネイト株式会社の株式を非支配株主から追加取得したことにより、資本剰余金が2,622百万円減少しています。その結果、当第2四半期連結会計期間末における資本剰余金は17,150百万円となりました。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

前連結会計年度の有価証券報告書の（重要な会計上の見積り）に記載した新型コロナウイルス感染症の収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	インテリア	エクステリア	海外	スペース クリエーション	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
売上高						
外部顧客への売上高	57,069	2,823	7,391	2,670	—	69,955
セグメント間の内部 売上高又は振替高	787	0	—	32	△820	—
計	57,857	2,823	7,391	2,703	△820	69,955
セグメント利益又は 損失(△)	3,118	253	△624	△34	△7	2,705

- (注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、全てセグメント間取引消去であります。
 2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
 3. 前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の重要な見直しが反映された後の金額により開示しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	インテリア	エクステリア	海外	スペース クリエーション	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
売上高						
外部顧客への売上高	65,851	2,894	9,422	3,557	—	81,726
セグメント間の内部 売上高又は振替高	720	0	0	23	△744	—
計	66,571	2,895	9,422	3,580	△744	81,726
セグメント利益又は 損失(△)	9,326	169	△600	127	△23	8,998

- (注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、全てセグメント間取引消去であります。
 2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

(重要な設備投資)

当社の完全連結子会社であるクレアネイト株式会社（以下、「クレアネイト」という。）は、2022年11月2日開催の臨時取締役会において、新工場建設を決議いたしました。

1. 設備投資の目的

当社グループ事業の主力となる塩ビ壁紙市場においては、過去、製造会社の事業撤退、縮小が行われたことにより供給力に制約が出ています。一方、主力の量産壁紙需要は増加を続けており、需要期には品切れが頻発する等、需給のタイト化による事業への影響が拡大しております。量産壁紙需要は、今後も引続き堅調な推移が見込まれ、量産を中心とする壁紙供給体制の強化が急務となっております。

このような中、当社グループは連結子会社であり壁紙製造を事業とするクレアネイトによる、新工場建設（広島県東広島市）を決定しました。これにより持続的な安定供給を実現するとともに、長期ビジョン〔DESIGN 2030〕に掲げる社会的価値の実現に向けた、環境負荷の低減や土日完全週休2日制の実現などの労務環境の整備も進めてまいります。

2. 設備投資の内容

(1) 所在地	広島県東広島市高屋台2-113-10
(2) 敷地面積	29,610㎡
(3) 建物	平屋建て 建築面積 約14,000㎡ 延床面積 約14,000㎡
(4) 着工	2023年 2月予定
(5) 竣工	2024年 7月予定
(6) 投資予定額	85億円

3. 子会社の概要

(1) 名称	クレアネイト株式会社
(2) 所在地	東京都品川区東品川3-20-17
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役 兼 執行役員会長 福田 晃 代表取締役 兼 執行役員社長 井上 弘一
(4) 事業内容	壁紙の製造・販売、生活雑貨関連商品の販売
(5) 資本金	1億円

4. 当該設備が営業・生産活動に及ぼす重要な影響

当新工場建設による2023年3月期の連結業績に与える影響については、軽微となる見通しです。